

椎間板ヘルニア解析まとめ

□解析方法...P8

□解析結果

i .全体の成績（グレード別） ...P9

ii .年齢と回復度の相関関係...P10

iii .発症から細胞治療投与開始までの経過日数による回復の関係性...P11

iv .病状の深刻度（グレード・圧迫強度）による治療の回復度...P12

v .外科の有無での細胞治療の成績比較...P13

□解析方法

①治療評価に関するヒアリング項目（以下5項目をヒアリング）

□発症時の状態（ 年 月 日 段階）{右・左・両}側

随意運動	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 尾のみあり <input type="checkbox"/> なし
起立	<input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> ふらつき <input type="checkbox"/> 要補助 <input type="checkbox"/> 不可能
歩行(あれば)	<input type="checkbox"/> 協調歩行 <input type="checkbox"/> ふらつき <input type="checkbox"/> 脊髄歩行 <input type="checkbox"/> 跛行
排尿コントロール	<input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 一部不完全 <input type="checkbox"/> 不可能
深部痛覚	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明

うち、起立・排尿コントロール・歩行の3項目について評価項目を策定。

異常より正常に変化...1ポイント

不完全だが一部可能（ふらつきなど）...0.5ポイント

不可能・変化なし...0ポイント

とし、個体ごとに点数を評価。治療後の点数算出する。

□解析結果

ⅰ.全体の成績(グレード別)

解析対象：神経疾患(変形性脊椎症・脊髄梗塞・ウォブラー症候群含む)でグレードが3-5の犬。

方法：麻痺回復・歩行可能など改善が見られた症例をグレード別で算出する。

* 回復と評価した症例はグレード3-5において1ポイント以上

(回復ポイントの評価は解析方法参照)

過去の蓄積データに足し合わせて評価した。

結果：

全体	94症例／133症例	71%
グレード3	24症例／28症例	86%
グレード4	50症例／65症例	77%
グレード5	20症例／40症例	50%

ii.年齢と回復度の相関関係

解析対象：椎間板ヘルニアグレード5の犬38症例

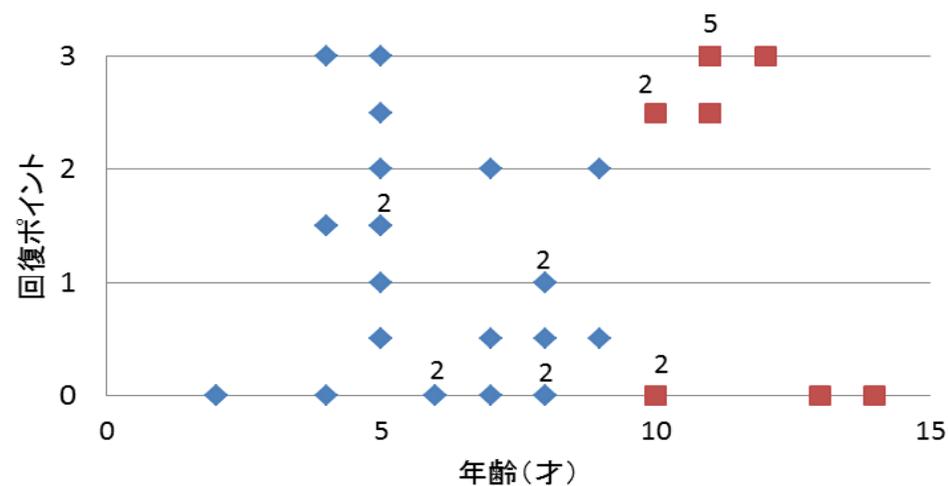
方法：10歳未満(n=26)、10歳以上(n=13)の個体で回復ポイントを比較

結果：

有意差は得られなかったが、10歳未満では部分回復が多くみられる傾向にあった。

10歳以上の個体では完全回復と反応なしが明確に分かれる傾向にあった（以下）。

* 数字は同ポイントでの個体数



iii.発症から細胞治療投与開始までの経過日数による回復の関係性

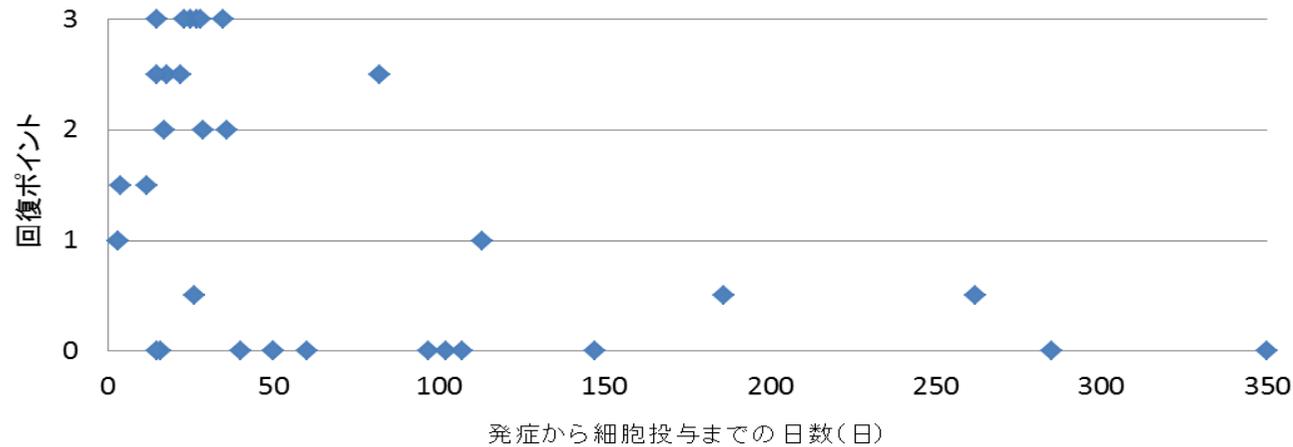
解析対象：椎間板ヘルニアグレード5の犬38症例

椎間板ヘルニアグレード4の犬38症例

方法：それぞれのグレードごとに発症してから投与するまでの日数(横軸)に対しての回復ポイント(縦軸)をプロットした。

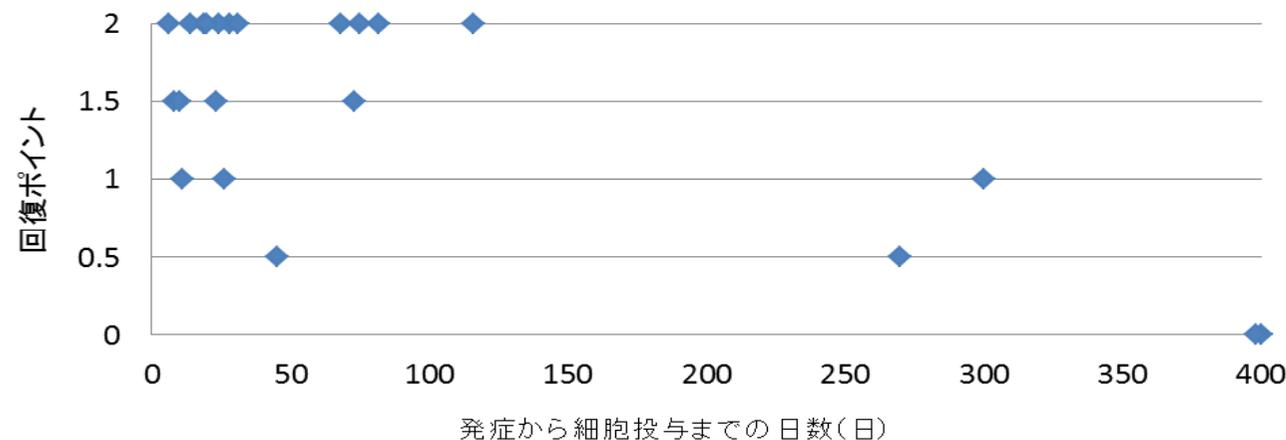
結果：

○グレード5



→30日以内に細胞投与を行った個体に対して高い回復率が見られる傾向にあった。また、発症から投与までの日数経つほど回復度合いが低下する傾向が見られた。特に50日を過ぎると回復する個体の割合が減少した。

○グレード4



→何らかの回復傾向が出ている個体が大半であった。特に80日以内に細胞投与を行った群では、高い回復率が見られる傾向にあった。

iv.病状の深刻度（グレード・圧迫強度）による治療の回復度

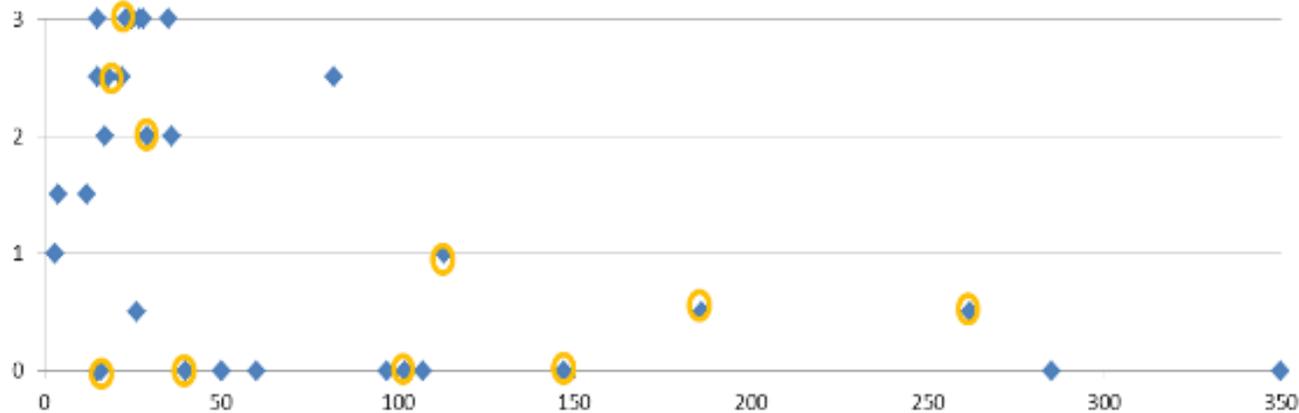
解析対象：椎間板ヘルニアグレード5の犬38例

椎間板ヘルニアグレード4の犬38例

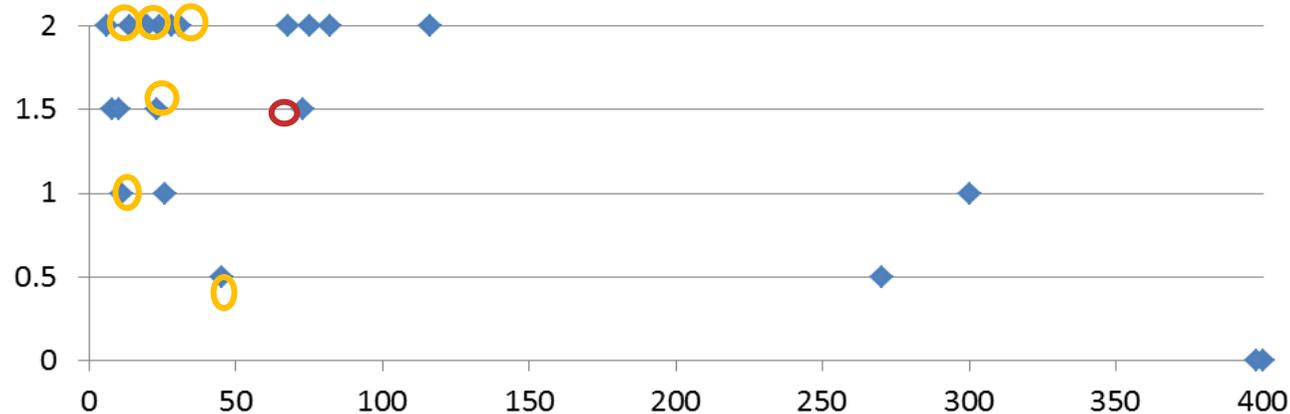
方法：それぞれのグレードごとに発症してから投与するまでの日数(横軸)に対しての回復ポイント(縦軸)をプロットした。また、画像診断にて圧迫の程度（ハンセンⅠ型、Ⅱ型）がわかっている症例には印をつけた。*圧迫度合いが不明なものには印をつけていない。

結果：ハンセンⅠ型：○ ハンセンⅡ型：○

○グレード5



○グレード4



v.外科の有無での細胞治療の成績比較

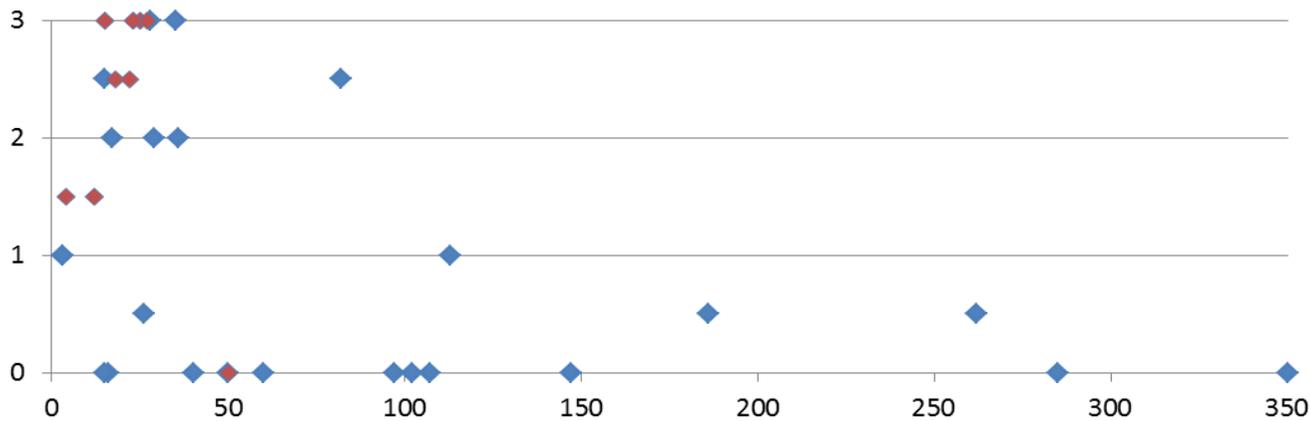
解析対象：椎間板ヘルニアグレード5の犬38症例

椎間板ヘルニアグレード4の犬38症例

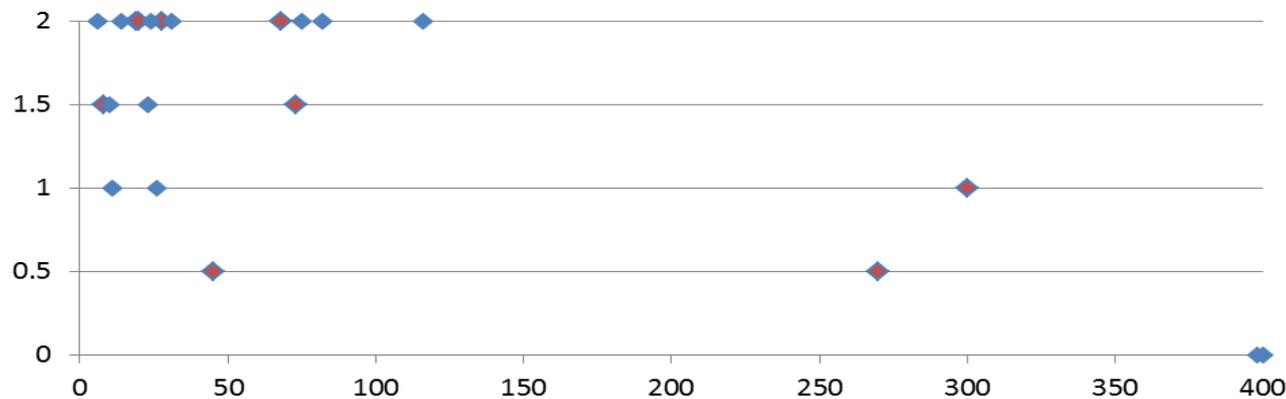
方法：それぞれのグレードごとにOPEの有無で個体を色分けし、それぞれの群において。発症してから投与するまでの日数(横軸)に対しての回復ポイント(縦軸)をプロットした。

結果：

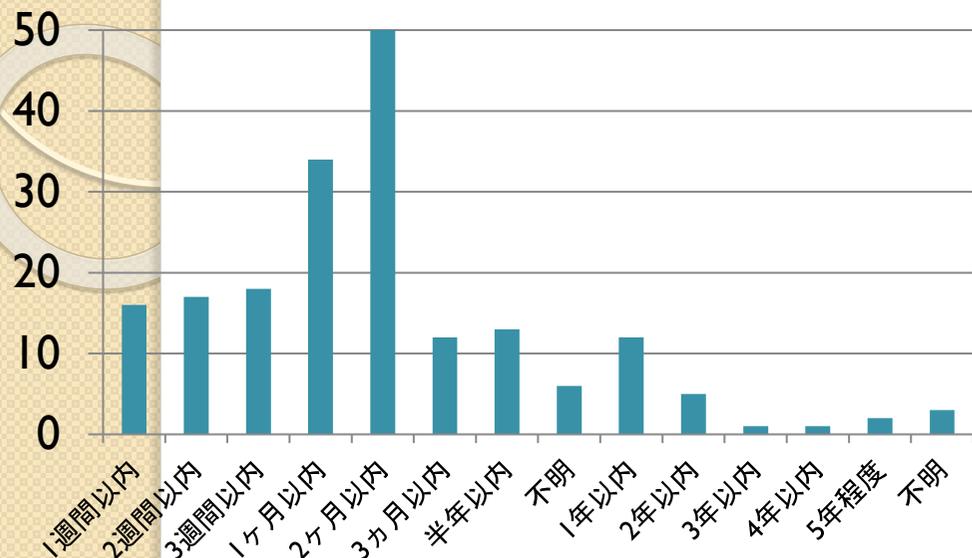
○グレード5 青：OPEあり 赤：OPEなし



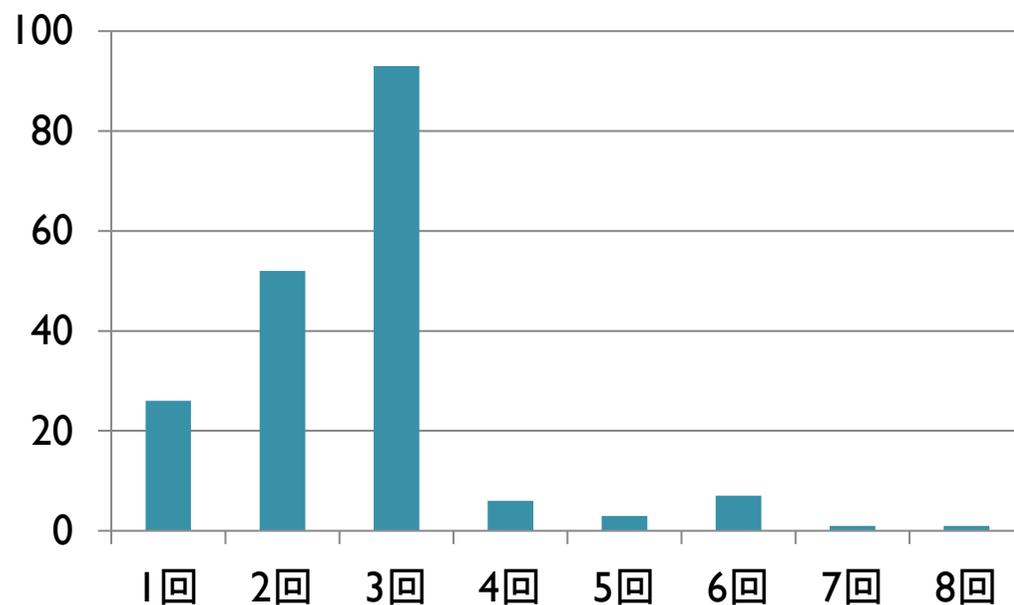
○グレード4



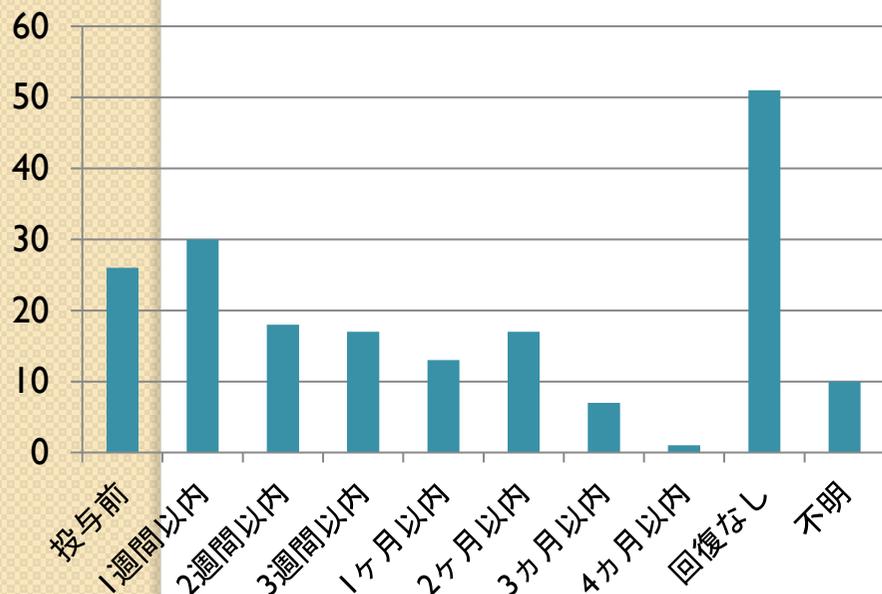
椎間板ヘルニア発症から 細胞投与までの期間



細胞の平均投与回数



1回目投与からの反応日数



(母体群：神経疾患190症例)